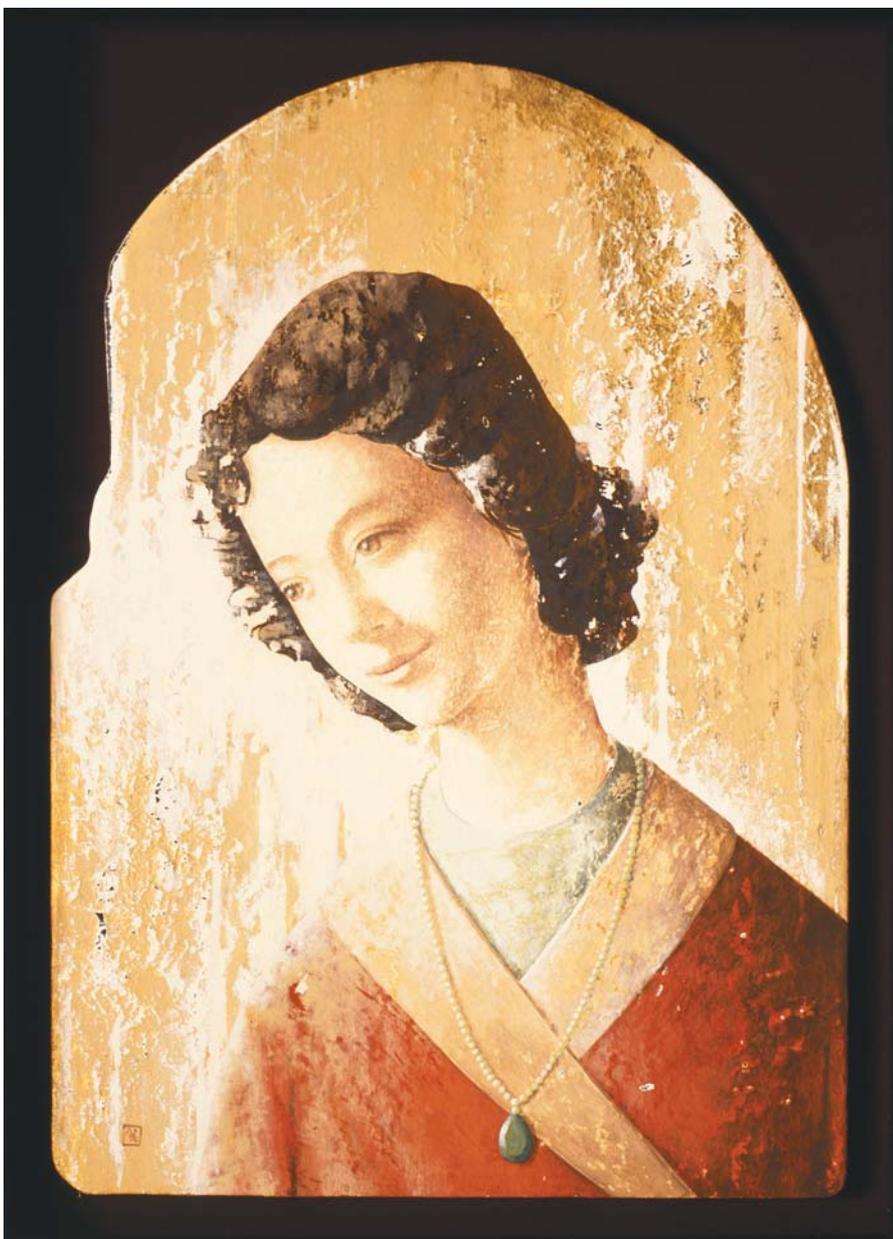


生きるⅡ

「生命(いのち)・心を支えるもの」

この頃連日のようにマスコミでは残酷な事件が報道されています。心が痛みます。宇宙や自然を敬い、そこから謙虚に生命の基本を学び、生きて行く事が段々失われているような気がします。

人間は誰も幸せを求めて一生懸命生きています。しかし長い人生の中ではいろいろな出来事に遭います。身を裂かれるような悲しい出来事や、理不尽な事も沢山経験します。私も一八歳で突然骨肉腫になり左足



『慈愛』

を大腿部より切断し、それから一〇年以上生死の闘病生活を送りました。受験、学校、恋愛、就職、仕事、人間関係等全ての面で先が見えなくなりました。

そんな時、私を心身共に支えてくれたのが、必死の思いで見守ってくれた両親。精一杯治療・看護してくれた医師や看護師さん達。孤独になるのを救ってくれた家族・友達。時々素晴らしい世界に触れて味わう感動。その後将来どう生きて行けば良いか分からなくなってきた時、いろいろな面で協力し助けてくれた人生の先輩達。古今東西で素晴らしい仕事をし人類に光を与えて

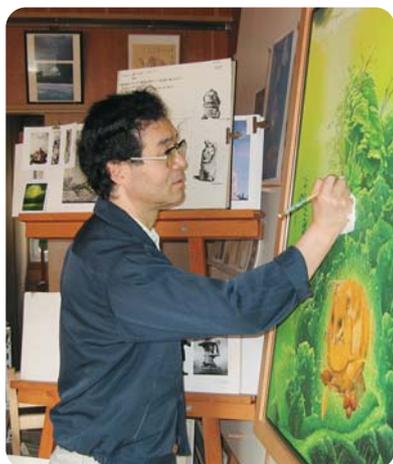
くれた先人達。そして宇宙につながる青い空、満天の星空、自然が見せてくれる四季折々の美しい景色や生命の真実な姿等でした。

当たり前の事をあえて書きますが、艱難を背負って生き続ける事は本当に大変な事です。それでもそこにはいろいろな意味が隠されています。宇宙生命が、私達人類が本当の意味で幸せに豊かに生きるにはどうしたらよいかという答えも隠されています。

確かに言えることは、私は宇宙・自然、回りの多くの人達のお陰で今も生き延びています。

作者：小池誠 (こいけ・まこと)

1957年長野県生まれ。18歳のとき骨肉腫になり左足大腿部より切断。20歳で左肺に、28歳で右肺に転移し摘出手術をする。闘病生活後、アート、デザイン、エッセイ執筆等始める。87年第9回ケニア画廊新人展(特別賞受賞)。90年紀伊国屋画廊で個展・96年にも開催、第4回ジェック「ま・な・び・す・と大賞」(優秀賞受賞)。91年第18回日仏現代美術展(テレビ信州賞受賞)。第3回障害者アートバンク大賞(大賞受賞)。93年「善行者」として長野県知事表彰。99年「伝言一刻を超える それぞれの表現」駒ヶ根高原美術館、2007年第7回国際アビリンピック「ポスターデザイン部門」日本代表として出場(特別賞受賞)、「成績優秀技能者」として長野県知事表彰。その他、公募展、グループ展、個展、版画、本・雑誌の表紙使用、エッセイ執筆、受賞等多数。パブリックコレクション：駒ヶ根高原美術館、喬木村歴史民俗資料館ほか。http://mkoike.serio.jp



心の
アート
小池誠